

第4節 ソーシャルスキル教育教材事例調査

本節では、今年度の事業で行った事例調査について解説する。本調査では、教育プログラムを構成する「日本文化・社会教育」「日本型コンピテンシー教育」「キャリア教育」の3科目の教育内容と合致または近似する既存教材の事例を収集し、教材の調達または教材開発の参考資料とすることが目的である。また、教材だけでなく教育方法や評価方法といった授業・講義運営方法に関する知見を得るために、研修に関する事例も調査することとした。

第1項では「日本文化・社会教育」に関する教材及び研修の事例を提示する。ここでは、日本の表層的な現代文化や伝統文化だけでなく社会、政治、経済、人々のくらしといった様々な日本事情を提供している教材及び研修を集めている。また、本事業の趣旨を反映して沖縄に特化した教材及び研修もここに提示する。

第2項では「日本型コンピテンシー教育」を取り扱う教材及び研修に関して報告する。ここでは、日本での各専門分野の業務または分野共通的な業務における細やかさ・配慮・丁寧さなど日本的な働き方の行動様式を学ぶための教材及び研修について説明している。なお、本事業で開発する予定の「日本型コンピテンシー教育」用教材は課題解決型（PBL）の方式を想定しているため、なるべくPBL方式または同様に実践的なケーススタディ、ロールプレイ、OJTタイプの教材及び研修事例を収集している。

第3項では、「キャリア教育」に関する教材及び研修の事例の調査結果をまとめている。日本での外国人の就職活動手順・方法、キャリア形成の在り方、外国人のキャリアモデル、外国人の日本就業事例などを整理した教材やインターンシップを含んだ研修等の事例について述べる。

第1項 日本文化・社会教育

① 教材事例

[1] 『留学生のための日本事情入門—1冊でわかる最新日本の総合的紹介』

・編者/出版社

金津日出美、桂島宣弘、アジアにおける日本研究ゼミナール / 図書出版 文理閣

・価格

定価 2,000 円

・頁

184 頁

・対象

日本に留学してきた海外の高校生・大学生

・目次

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 覚えておきたい日本語の日常表現 | 2 生活事情 |
| 3 交通事情 | 4 留学生のための法律知識 |
| 5 日本人の食生活 | 6 日本の春・夏 |
| 7 日本の秋・冬 | 8 京都案内 |
| 9 日本の祭り | 10 日本の名所 |
| 11 日本の芸能 | 12 日本の芸道 |
| 13 日本の大学 | 14 大学の四年間 |
| 15 日本の教育 | 16 現代日本と世界とのつながり |
| 17 現代日本の音楽・映画事情 | 18 現代日本の大衆娯楽 |
| 19 現代日本の家族 | 20 現代日本の若者文化 |
| 21 働く人々の諸問題 | 22 日本の国土・資源・人口・特産品 |
| 23 日本の政治と経済 | 24 憲法と平和問題 |
| 25 日本のあゆみ | 26 宗教 |
| 27 日本の方言 | 参考文献・参考 URL 一覧 |

・所見

日本で実際に生活している日本人学生と外国人留学生の交流から提案されたテ

ーマを厳選して作った日本事情紹介テキスト。日本文化や政治、生活事情や日本語に関することなど様々な日本に関わる事情を留学生の目線に立って編まれた書籍である。

留学生に伝えるべき日本に関するトピックが網羅的に掲載されているため、この書籍を参考にすることにより日本文化・社会教育用教材に含めるべき内容の候補をリスト化することが可能になる。

[2] 『国際交流基金日本語教授法シリーズ 11 日本事情・日本文化を教える』

・ 編者/出版社

国際交流基金/ひつじ書房

・ 価格

定価 900 円

・ 頁

97 頁

・ 対象

日本事情、日本文化に関わる科目を担当する日本語教師

・ 目次

1 今までの授業を振り返る

1-1. 「日本事情」や「日本文化」の授業

1-2. 「日本語」の授業の中で扱っている日本事情や日本文化

2 日本事情や日本文化の扱い方を考える

3 内容を考える—初級の教科書の分析—

3-1. 文化に関するコラムや紹介文など

3-2. 本文中の「日本に関係あることば」

3-3. 本文中の「日常生活や行動を表すことば」

3-4. ことば以外のもの

3-5. まとめ

4 素材を考える

- 4-1. 日本に触れる環境
- 4-2. 写真を使う
- 4-3. 映像（動画）を使う
- 4-4. データを使う
- 4-5. 「レアリア」を使う
- 4-6. 日本人や日本をよく知っている人を招く
- 5 「日本事情・日本文化」を意識した授業を計画する
 - 5-1. 日本語の授業の中に日本事情・日本文化を取り込こむ
 - 5-2. 日本事情・日本文化を教えるための独立した授業を行う
- 6 学習者が学んだことを確認する
 - 6-1. ポートフォリオ
 - 6-2. ルーブリック

・備考

国際交流基金が著した日本語教授法シリーズの第 11 巻。

・所見

通常、多くの日本語学校では日本語を教えることを優先する中で日本文化や事情に関する授業を扱う時間を多くとることができないという。日本事情や日本文化を扱うこと自体は必要だと思っけていても、時間、機会、情報がなく授業を設置できないこともある。そして、いざ日本事情や文化を教えるという場合、どのようにして授業を作っていけばいいのかわからないという教師に向けて作られたのがこの本である。「何を教えるか」より「どう教えるか」「どう取り上げるか」を大切にすることで、時間や環境が充分整わなくても、日本事情や日本文化を取り上げることはできるとし、言語と文化を結びつける効果的なリソースを検討し、学習者と共に発見し考えながら、楽しんで教えることができる方法を提案している。

留学生用の教材ではないが、日本文化・社会教育用の教材を開発する際、どのような点に気を付けて内容を作っていくべきかをこの書籍から知ることができる。また、実際にどのような素材を活用して日本事情や文化を留学生に伝えるかと

いう点についてもヒントをくれるものである。

[3] 『新訂版 話そう考えよう初級日本事情』

・ 編者/出版社

「日本事情」プロジェクト/スリーエーネットワーク

・ 価格

定価 1,000 円

・ 頁

72 頁

・ 対象

初級レベルの日本語学習者

・ 目次

第 1 部 生活

- | | |
|----------|----------|
| ①住所を覚える | ②電話をかける |
| ③手紙を出す | ④日本の家に住む |
| ⑤あなたのまわり | ⑥買い物をする |
| ⑦銀行へ行く | ⑧食事に行く |
| ⑨乗り物に乗る | ⑩保険に入る |
| ⑪仕事をする | |

第 2 部 地理

- | | |
|-----|--------|
| ①国土 | ②山と川 |
| ③気候 | ④日本の一年 |
| ⑤人口 | |

第 3 部 社会

- | | |
|-----------|-----------|
| ①衣服 | ②食物 |
| ③住居 | ④出生率と平均年齢 |
| ⑤ライフ・サイクル | ⑥結婚と離婚 |
| ⑦日本人の一日 | ⑧便利さとゆとり |

⑨教育

⑩労働と賃金

⑪貯蓄

・所見

初級から日本語の学習進度に合わせ、「現代日本を理解する」ことを目的として、日本について学習するための教科書。第1部「生活」では身近な住所、電話、手紙を出す、第2部「地理」では国土、日本の1年、人口、第3部「社会」では食物、住居、出生率と平均寿命などを取り上げている。第2部、第3部は日本の高校の「現代社会」の教科書のような内容が読めるための足がかりとなっている。使用時間の目安は60時間となっている。

基本的には独学用の教材ではなく、教室等の集合学習の環境で教師の指示を受けながらクラスメート等の共同学習者と共に学ぶための教材となっている。

留学生用の日本文化（生活、地理、社会）教育に特化した教材であるため、学習項目として掲載されている内容は本事業で開発する日本文化・社会教育の内容を選択する際の参考になると思われる。

[4] 『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』

・編者/出版社

佐々木瑞枝/ジャパンタイムズ

・価格

定価 2500 円

・頁

208 頁

・対象

中級から上級のレベルの日本語学習者

・目次

Unit 1 : 日本ってどんな国？

Unit 2 : 都市の暮らし・地方の暮らし

Unit 3 : 日本の旅を楽しもう

Unit 4 : いただきます！

Unit 5 : 季節を楽しむ年中行事

Unit 6 : 知っておきたい日本の歴史

- | | |
|------------------------|------------------------|
| Unit 7 : 伝統文化体験 | Unit 8 : 現代文化とポップカルチャー |
| Unit 9 : スポーツの楽しみ方 | Unit 10 : 前進を続ける科学技術 |
| Unit 11 : 地球のためにできること | Unit 12 : 教育と子供たち |
| Unit 13 : 産業構造と経済 | Unit 14 : 政治と憲法 |
| Unit 15 : 多文化共生社会を目指して | |

・備考

巻末には、ユニットで学んだ内容を確認するためのワークシート「内容確認問題」と、各ユニットの「語彙リスト」、読解文の英訳がある。

・所見

過去と現在、都市と地方、日本と海外など、さまざまな角度から考察する文章を読み、その後多様なタスクを通して日本についてより深く、より広く、より楽しく理解することができるよう作られた教材。地理や歴史、政治、経済といった基本的なテーマから、ポップカルチャーやロボットなどの新しい話題まで、学習者が興味をもって取り組める内容がそろっている。テーマについて詳しく説明した読解文では書き言葉を、そのテーマに関する場面を設定した会話文では話し言葉が学べます。また、ユニット単位での学習も可能なので、短期のコースで必要な部分だけ使用することもできる。

各ユニットは、そのユニットのテーマを象徴するカラー写真を掲載している「ユニット扉」、読解文とタスクによる「Section 1」、会話文とタスクによる「Section 2」、扉ページの写真に関する文化的な情報をまとめている「扉の関連情報」によって構成されている。

留学生や外国人材に向けた日本事情学習用の教材であるため、扱っている学習項目は本事業で開発する日本文化・社会教育用教材の学習テーマを選ぶ際に重要な知見を与えてくれると思われる。また、この教材のようにタスクによる理解度確認や読解内容の英訳といった付属資料を作成するかという点も、検討すべき点として挙げられる。

・ 編者/出版社

公益財団法人京都日本語教育センター/アルク

・ 価格

各定価 2,592 円

・ 頁

初中級：104 頁、中上級：111 頁、上級：147 頁

・ 対象

初中級、中上級、上級レベルの日本語学習者

・ 目次

[初中級]

第 1 章「日本語は名詞がポイント」、第 2 章「日本語の時制は実に明快!」、第 3 章「動作の流れは動きの連続」、第 4 章「日本語のコミュニケーションは文末で完成」、第 5 章「強い願望は祈りの言葉」、第 6 章「「する」は人のやること。「なる」はその結果」、第 7 章「「する」ほうと「される」ほう」、第 8 章「感じたことがそのまま言葉に」

[中上級]

川端康成「雨傘」、村上春樹「天井裏」、清少納言「枕草子」等全 20 篇

[上級]

芥川龍之介「鼻」、宮本輝「途中下車」、安部公房「鞆」等全 18 篇

・ 備考

英語・中国語・韓国語・ベトナム語の 4 カ国語（上級はベトナム語無し）対訳入り別冊語彙リストが付属している。さらに、朗読音声を入れた CD が付いているため、独習教材としてもクラス教材としても使える。

・ 所見

著名な日本人作家による短編小説、エッセイ、評論、論説文などが掲載されており、それらの作品を通して学習者が「上質な日本語」を学ぶとともに日本文化、日本事情、日本人のものの考え方にも知見を深めることができるよう構成されている。

実践的な PBL やケーススタディを通してではなく、知識として日本、日本人、日本文化及び日本的価値観について造詣を深めようという内容の授業や講義を開発する際に、本教材は参考となるところが大きい。

[6] 『留学生のための日本史』

・ 編者/出版社

東京外国語大学留学生教育教材開発センター/山川出版社

・ 価格

定価 1,995 円

・ 頁

171 頁

・ 対象

初級レベルの日本語学習者

・ 目次

1 日本の姿（いま、どこにすんでいますか；日本は、どこにありますか；日本には、どんな島がありますか；日本は、どんな国ですか；日本のどこに、すんでいますか；いつの時代ですか）

2 日本の歩み（歴史をまなぶ；ひとがすむ—石器から土器へ；米をつくる—農耕と金属器の時代；統一政権の誕生—古墳の時代；古代国家の形成—律令の時代；律令国家の変容—貴族の時代；武士政権の登場—貴族と武士の二重政権；武士社会の展開—庶民と戦国大名の台頭；全国統一の完成—ヨーロッパ人の来航と日本；幕藩体制の確立—身分制と鎖国の時代；開港と日本の近代化—明治維新の時代；帝国憲法体制の展開—立憲主義から軍国主義へ；現代日本の出発—敗戦から高度成長の時代）

・ 備考

別売りの「学習者用ノート」や「練習問題集」を活用することにより、自習用だけでなく教室での集合授業用にも利用することができる。

・ 所見

外国人留学生を対象とした日本の歴史（縄文時代から現代まで）に関する教材。日本の歴史について視覚的にも学べるよう、文章だけでなく写真や絵も挿入された形で構成されている。教材内で使用されている単語や表現についての説明もあり、日本語の学習もできるように叙述されている。

留学生が日本について学ぶ際、言葉・文化・専門分野や日常生活に必要なことについて学ぶことが多いが、日本の歴史について学ぶ機会はあまり提供されていない。日本という国がどのような歴史的変遷をたどり現在に至っているかという内容を留学生に提供することで、現代の日本社会や産業に関する背景的知識を豊かにすることができるため、留学生向けの日本史という内容は日本文化・社会教育の一環として取り入れるべき内容であると思われる。

[7]『新版 みつめようわたしたちのきょう土 ひらけゆく沖縄県』

・ 編者/出版社

沖縄県小学校社会科教育研究会/沖縄時事出版

・ 価格

定価 610 円

・ 頁

82 頁

・ 対象

沖縄県内の小学校 4 年生の日本人児童

・ 目次

第 1 章 地いきの発てんにつくした人々

① 沖縄の産業の発てんにつくした人「儀間真常」

② 組踊をつくった人「玉城朝薫」

③ 沖縄の教育とふっき運動につくした人「屋良朝苗」

④ 沖縄の音楽のパイオニア「宮良長包」

第 2 章 わたしたちの県のまちづくり

① 県の地図を広げて

- ②本部町のまちづくり
- ③読谷村の村おこし
- ④粟国村の島おこし
- ⑤世界とつながる沖縄県

・ 所見

本書は、沖縄県の小学校の4年における「くらしを高めるねがい」「わたしたちの県」の単元を学習するための教材として作られたものである。内容は2つの章から構成されており、第1章は沖縄の地域の発展に尽力した人物にスポットを当てて、その功績を紹介している。第2章では沖縄県における都市開発や産業、地理的特徴に関する解説が掲載されており、沖縄の小学生が自身の居住する沖縄県の特徴について知ることができるようになっている。

外国人留学生ではなくネイティブの日本人用の教材であるが、対象年齢の関係から平易な日本語、簡単な漢字及び振り仮名を用いて書かれている。そのため、初級を終えた日本語学習者であれば、多少の語彙を辞書等で調べながらであれば内容を理解することに困難はないと思われる。教材を作成する際日本語の漢字や読解のレベルが低い留学生を対象に入れるならば、本書のような文体は参考になるとと思われる。

また、児童に向けた比較的概略的な沖縄紹介は、留学生に対する沖縄文化・社会入門として扱いやすいものであるため、内容面でも参考とすることができる。

[8] 『沖縄まるごと大百科(2) 沖縄のくらし』

・ 編者/出版社

上江洲均(監修)、吉田忠正/ポプラ社

・ 価格

定価 2800 円

・ 頁

48 頁

・ 対象

日本人児童

・目次

第1章 沖縄の市場

那覇の市場を探検しよう、色とりどりの魚がならぶ魚屋さん、ちょっとびっくり肉屋さんの店先、農家から直送されてくる野菜の市場、トロピカルフルーツがならぶくだもの屋さん、市場通りで見つけたいろいろなお店

第2章 沖縄の食べもの

栄養たっぷり！沖縄の家庭料理、どこがちがう？沖縄の島豆腐、小学校の給食を調べてみよう、沖縄にはどんなおかしがある？

第3章 沖縄の住まい

緑の木ぎにかこまれた赤瓦の家、魔物から家を守るシーサーと石敢當、台風に強いコンクリートづくりの家、水不足にそなえる沖縄の人びと

第4章 沖縄の祭りと行事

沖縄の小学校の1年間の主な行事、運動会と学芸会ではどんなことをする？、沖縄にはどんな祭りや行事がある？、シーミーは親戚そろってのお墓参り、大漁と航海の安全をいのるウミンチュの祭り、ご先祖様をおむかえするお盆の行事、トウシビー（生年祝い）とカジマヤー

・備考

全5巻からなる『沖縄まるごと大百科』シリーズの第2巻。第1巻は「沖縄の自然」、第3巻は「沖縄の産業」、第4巻は「沖縄のことばと文化」、第5巻「沖縄の歴史」をテーマにしている。

・所見

沖縄の市場、食べ物、住まい、祭り及び行事といったテーマに関して豊富な説明が添えられており、沖縄の人々の暮らしに興味を持った児童が楽しく学べるような内容となっている。

児童向けに書かれているため比較的平易な文体で書かれており、すべてではないが漢字には振り仮名が添えられている。この点は、留学生にとっても使用しやすい特徴である。また、非常に多くの写真及びイラストが本書内には掲載されて

おり、文章だけではイメージしづらい内容についても視覚的な情報を通して理解ができるようになっていることも、教材作成においては参考とできる点である。さらに、本書は沖縄県内の児童のみに向けたものではなく日本国内のすべての児童を対象としているため、沖縄の文化や暮らしにかかわる概念や特別な用語についても解説されている。したがって、まだあまり長く沖縄で生活していない留学生にとっても、沖縄の社会や文化及び人々の暮らしについて深く理解する助けになるような内容となっているといえる。

[9] 『日本文化「日本の年中行事」』

・ 編者/出版社

学校法人新井学園 赤門会日本語学校

・ 価格

なし

・ 頁

22 頁

・ 対象

外国人日本語学習者（特に介護分野への就業を目指す者）

・ 目次

- | | | | |
|--------------|-------|-------------|-----------|
| ①正月
念日 | ②成人の日 | ③節分 | ④建国記 |
| ⑤ひな祭り
念日 | ⑥春分の日 | ⑦昭和の日 | ⑧憲法記 |
| ⑨こどもの日
念日 | ⑩七夕 | ⑪お盆 | ⑫終戦記 |
| ⑬月見
日 | ⑭敬老の日 | ⑮秋分の日 | ⑯体育の
日 |
| ⑰文化の日 | ⑱七五三 | ⑲ 天 皇 誕 生 日 | |
| ⑳大晦日 | | | |

- ・ 所見

本教材は、時節に応じた日本の象徴的な諸事象に関する知識を習得しておくことで、介護分野への就業を目指す外国人就業者が要介護者との日々の会話のきっかけ作りや話題共有等を促進できることを企図して作成された。

各講では祝日や年中行事をメインテーマとして扱っており、さらにメインテーマに関連したサブテーマが 3 つずつ用意されている。これにより学習者は季節ごとの行事やイベントに関して、背景知識から深く学ぶことができるようになっている。また、各講には関連する写真・画像も掲載されており、テーマに関する説明内容が理解しやすくなっている。作成者は「要介護高齢者とのコミュニケーションを促進する介護実務日本語運用力を向上させるために最適化されたもの」としているが、一般の日本語学習者にとっても日本の年中行事について学ぶ上で非常に有益な教材である。

文章はそれほど平易な印象ではなく読解し内容をよく理解するには少なくとも中級レベルの日本語能力が必要になってくると思われるが、すべての漢字に振り仮名が添えられておりある程度は読みやすくなっている。

本教材は日本全国の年中行事をテーマとして扱っているが、沖縄の年中行事に特化した内容を追加で作ることが可能であれば、沖縄で長く生活することを検討している留学生に対して非常に役に立つ教材になると考えられる。

[10] 『日本の高齢者を知る教育プログラム』

- ・ 編者/出版社

学校法人宮崎総合学園

- ・ 価格

なし

- ・ 頁

22 頁

- ・ 対象

外国人日本語学習者（介護福祉士候補者）

・目次

I 現代日本のトピック 10

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①東京オリンピック | ②高度経済成長 |
| ③主要国ニッポン | ④国際化の加速 |
| ⑤石油危機（オイルショック） | ⑥ジャパン・アズ・ナンバーワン |
| ⑦急激な円高 | ⑧バブル経済 |
| ⑨天皇崩御 | ⑩クール・ジャパン |

II 団塊世代のライフスタイル 10

- | | |
|----------------|----------|
| ①ビートルズ | ②ミニスカート |
| ③ジーンズ | ④自動車 |
| ⑤ニューファミリー | ⑥小説&コミック |
| ⑦ファーストフード&コンビニ | ⑧大衆消費社会 |
| ⑨趣味と生きがい | ⑩定年後勤続 |

・所見

外国人介護福祉士候補者が、彼らの介護対象の中心である団塊世代に配慮した日本の諸事情を知るための教材として作成された。本教材は、大きく次の2部から構成されている。まず、「I 現代日本のトピック 10」では、戦後の日本が世界における現在の地位を築き上げる過程で起った象徴的な出来事を10項目に整理して概説している。一方、「II 団塊世代のライフスタイル 10」では、団塊世代が生きた時代をその流行・習慣に焦点を当て、10項目に整理して紹介している。

上述したように、本教材の主要な対象は団塊の世代とのコミュニケーションを必要とすることになる介護分野に就労する外国人であるが、日本の戦後の歴史や文化を知る教材として多くの外国人日本語学習者にも有効な教材である。

本教材の本文は、比較的平易な日本語で書かれており初級終了程度の日本語学習者でも読解可能だと思われる。また、テーマごとに関連する画像が掲載されており、視覚的にも扱っている内容が理解しやすいように工夫されているという点で良い教材だといえる。

② 研修事例

[11] 『ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業』

・ 研修運営

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課

公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団

・ 参加費

沖縄県国際交流・人材育成財団が奨学金として実費支給

・ 期間

約 1 年間

・ 対象

日本語能力試験 N 4 程度又は受入機関が認める基準を満たす者

・ 学習項目

① 「沖縄県の施策説明」、

② 「留学の目標設定」

③ 「平和学習研修」

④ 「歴史学習研修」

⑤ 「伊江島民泊研修」

⑥ 「文化体験研修」

⑦ 「京都事前研修」

⑧ 「京都研修」

⑨ 「留学の振り返り」

⑩ 「留学・研修報告会」

・ 所見

沖縄県出身の海外移住者子弟や中国福建省・台湾のアジア諸国の人材を留学生として受け入れ、大学や研修機関等のプログラムに参加し、日本・沖縄の文化に対する理解を深めてもらうことを目的としたもので、昭和 44 年度開始。受入期

間中は、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に沖縄県と在外県系人社会及びアジア諸国等とのネットワークの架け橋になり、沖縄県と出身国との国際交流に寄与する人材育成を目指す。近年は県内の大学等に所属し、日本や沖縄の文化及び伝統芸能、日本語等を学習する「科目等履修生コース」と三線や伝統芸能を教えている各施設において技術研修を受け理解を深める「伝統芸能習得コース」が行われてきたが、平成 31 年度は県内大学等に 6 ヶ月間所属し、後に県内企業で 5 ヶ月間研修を受けノウハウを習得する「企業研修コース」も募集している。

留学生に沖縄の文化、歴史、芸能といったものを伝える試みとしては長い歴史を持っている。県外への研修も用意されており、沖縄だけでなく別の地域についても知ることができるプログラムとなっている。プログラム終了時には自信が何を学んだか伝える報告会もあり、その報告書も WEB サイトにて公開されている。1 年間という長期間でのプログラムでどのような取り組みを行い、どのような成果を要求するかという点で本研修は参考になるものである。

[12] 『琉球大学日本語・日本文化研修留学生（日研生）対象日本語プログラム』

・研修運営

文部科学省

琉球大学

・参加費

国費留学のプログラム

・期間

約 1 年間

・対象

日本国以外の大学の学部在籍（主に 3 年次以上）している者。また日本語・日本文化に関する分野を主専攻にしている者。日本語力は日本語能力試験 N2 以上の能力があることが望ましい。

・学習項目

①必須科目

基礎演習、課題研究、アカデミック日本語、聴解、琉球文化特別研究、国際事情、日本文化論、日本語演習、日本文学作品鑑賞

②見学、地域交流等の参加型科目

沖縄事情、日本事情（年間 5 回程度の県内外での社会見学、県内企業でのインターンシップ、フェスティバル等での地域交流）

③その他の講義、選択科目等

文法、読解、会話、口頭表現、ビジネス日本語 等

④琉大特色科目

三線入門、うちなーぐちあしび、琉球の自然と人 等

・所見

毎年日本政府（文部科学省）奨学金留学生として、日本の大学において高度な日本語能力及び日本事情、日本文化の理解の向上のため来日した外国人留学生（日研生）に各受け入れ大学が提供するプログラムの琉球大学版。

日本語及び日本の社会や文化の比較に重点を置いた研修を受ける中で、併せて地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加を通して沖縄独特の伝統や社会・文化についても理解を深めることができる。

主な修了生の進路は、日本国内企業や自国の日系企業での就職、研究者、通訳ガイドや日本国内の大学・大学院等への進学が多い。

研修期間中は、日本語教育・留学生支援を専門とする琉球大学の指導教員が学業・研究と生活の両面で指導する。また、日本人学生がチューターとして各研修生に 1 人つくことで、日常生活における簡単なサポートも行えるようにしている。

本研修も 1 年間という長期間でのプログラムでどのような内容を提供すべきかにおいて大きく参考にできる。また、修了生が日本国内でさらに進学をしたり就職をしたりしているという点でも、本研修が提供するプログラム内容及び学習項目は参考にすることが有意義であると思われる。

[13] 『留学生のための日本の伝統文化体験』

・研修運営

一般社団法人 吹田にぎわい観光協会

・参加費

記載なし

・期間

平成 27 年度分 : 2015 年 9 月 25 日

平成 28 年度分 : 2016 年 9 月 23 日

・対象

平成 27 年度分 : 関西大学の留学生

平成 28 年度分 : 大阪大学の留学生

・学習項目

平成 27 年度分

- ①日本庭園の説明
- ②書道体験
- ③印鑑制作見学
- ④和食の説明と昼食
- ⑤茶道体験
- ⑥浴衣体験、和装礼法

平成 28 年度分

- ①日本庭園の説明
- ②砂紋づくり体験
- ③和食の説明と昼食
- ④茶道体験
- ⑤着物着付け
- ⑥浴衣体験

・所見

平成 27 年度及び 28 年度の日本万国博覧会記念基金事業として採択された事

業。吹田市在住の関西大学留学生（平成 27 年度）、大阪大学留学生（平成 28 年度）を万博記念公園に招待し、様々な伝統文化を体験してもらう。それを通して感じたことを SNS 等で母国に発信してもらうことで、諸外国の方々に日本の伝統文化や日本に関する情報に興味を持ってもらい、インバウンドの増加に貢献することを目的として行われた。

それぞれの学習及び体験項目においてその道の専門家を招聘し、留学生は書道・茶道・和服などを見るだけでなく実際に体験する。体験後に留学生たちが発信した SNS 投稿の内容の一部は、留学生のための日本の伝統文化体験 WEB サイトで閲覧することが可能である。1 日だけの研修であることから、体験型の校外研修として性格が強い。しかし、留学生が日本文化におけるどのようなトピックに興味を持つかという点は参考になる。また、研修体験を SNS で発信するという行為を研修における報告としている。この方法を応用して、学習内容の進捗や評価を SNS やオンライン上のフォーマットを使って行うという方法として参考にすることが可能である。

[14] 『日本語・日本文化短期研修プログラム』

・研修運営

愛知教育大学

・参加費

記載なし

・期間

約 3 週間

・対象

米国ニューヨーク州立大学フレドニア校学生及び卒業生

同大学の他キャンパス学生、他大学生

（日本語レベル制限なし）

・学習項目

日本語教育

- ①日本に到着してすぐに必要な情報を得るのに必要な表現
- ②生活に必要な様々な情報を得るための質問、応答
- ③食事や買い物の日本語

日本文化研修

- ①日本語教育の中で
- ②日本文化の授業
- ③日本文化体験
- ④社会見学
- ⑤学校訪問

・所見

愛知教育大学が協定校である米国ニューヨーク州立大学フレドニア校の学生を主対象として、他キャンパス、他大学の学生も受け入れ行われたプログラム。

日本文化の授業は、「日本語と日本人のコミュニケーション」、「日本の若者と音楽文化」、「世界と日本の鉄道システム」、「英国から見た日本の教育」、「日本人のジェスチャー」、「日本人のコミュニケーション」、「日本のポップカルチャー」、「日本の伝統芸能」、「日本人の習慣」、「日本の武道」といったテーマについての講義が日本語・英語の併用で行われた。また、日本文化体験では書道、茶道、空手、コマやカルタなどの遊び、相撲部屋見学といった伝統的な日本文化に触れることができるプログラムが用意されている。さらに、名古屋や京都散策、トヨタの自動車工場といった社会見学の機会も提供されており、研修参加者は様々な日本の側面を知り、体験することができる内容となっている。

本研修も、外国人留学生が日本の文化の中で特にどのような分野に興味を持っているかという点で参考になると思われる。

[15]『留学生のための宮崎・鹿児島研修旅行』

・研修運営

公益財団法人 西日本国際財団

・参加費

無料

・期間

3日間

・対象

各大学の留学生会から推薦を受けた外国人留学生

・学習項目

宮崎

- ①株式会社黒木本店訪問・見学
- ②木城えほんの郷
- ③高鍋町民との交流会
- ④西日本シティ銀行宮崎営業部

鹿児島

- ⑤第十五代沈壽官窯・陶苑
- ⑥天台宗大雄山南泉院
- ⑦南泉院での体験修行と西郷南洲顕彰館・南洲墓地の訪問

・所見

公益財団法人西日本国際財団が定期的に行っている留学生用の様々な日本文化体験研修の一つ。研修の参加には大学の留学生会からの推薦が必要な他、事前学習として予め訪問場所について下調べをしたうえで質問事項をまとめて提出しておく必要があり、学習する強い意欲を持った留学生のみが参加できるようなプログラムとなっている。

研修を運営する財団が毎年1回、アジアの発展及びアジアとの国際交流に貢献している団体・個人に贈る「西日本国際財団アジア貢献賞」受賞者及び候補者のもと訪問場所に含まれており、日本とアジアのつながりやアジアのために尽力している日本人の取り組みを深く知ってもらうことも目的の一つとなっている。

研修では地元焼酎メーカーや銀行といった企業で地元の産業に触れることができるほか、娯楽施設や寺といった観光名所及び薩摩焼の製作体験で文化にも触

れ、地元の人々との交流もできる有意義な内容となっている。

地域の文化及び産業に密着した学習内容を提供するという面で本研修は参考にできる点がある。

第2項 日本型コンピテンシー教育

① 教材事例

[16] 『ロールプレイで学ぶビジネス日本語 グローバル企業でのキャリア構築をめざして』

・ 編者/出版社

村野 節子・山辺 真理子・向山 陽子/スリーエーネットワーク

・ 価格

定価 2,160 円

・ 頁

164 頁

・ 対象

上級

・ 目次

1 課 自己紹介を行う（社内）

2 課 自己紹介を行う（社外）

3 課 電話を受ける

4 課 アポイントを取る

5 課 会議に参加する

6 課 クレームを受ける

7 課 クレームを報告する

8 課 クレームを処理する

9 課 会議で提案する（販売促進）

10 課 新規顧客を開拓する

11 課 新規顧客とアポイントを取る

12 課 商品を売り込む

13 課 催促の電話をかける

14 課 交渉を進める

15 課 受注に成功する

・ 所見

上級レベル（N1 以上）の日本語力を持つ学習者向けの教材。ビジネス上頻出するシチュエーションのモデル会話とロールプレイで高度な実践的会話力を身につけるだけでなく、各課に設定されたケーススタディを用いてビジネス上のコンフリクトについて考えることで問題解決能力も養うことを目的としている。内容は、課ごとにテーマが設定されており、まずビジネス会話の流れを学ぶことから始める。その後、そこで学んだ項目を活用したロールプレイを行う。さらに、日本企業文化について考えるためのケーススタディに移るという順番になっている。以上の流れからわかる通り、独習よりはクラスでの集合学習に向けた教材である。

本書籍では、外国人材が日本で働く際に疑問を感じる点や抱える問題を多く収録している。そこから日本的な働き方の行動様式を深く知ることができるという点で非常に参考になる教材である。また、ケーススタディとロールプレイでの実践的な学習内容を提供している点でも参考にする点が多い教材だといえる。

[17]『留学生のためのビジネス日本語シリーズ -人財- 仕事を知る ~企業活動シュミ

レーション~』

・ 編者/出版社

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)

・ 価格

無料

・ 頁

【自国を売り込むツアー企画プロジェクト(旅行観光業)】

活動冊子 36 頁、リソース集 41 頁、講師用手引き 37 頁

【団塊世代向け商品企画プロジェクト(貿易業)】

活動冊子 32 頁、リソース集 29 頁、講師用手引き 37 頁

・ 対象

中上級から上級の日本語学習者で日本企業への就職を目指す者

・目次

【自国を売り込むツアー企画プロジェクト(旅行観光業)】

- ①オリエンテーション
- ②基礎知識の習得
- ③情報収集について学ぶ
- ④商品を企画する
- ⑤情報を収集する
- ⑥宣伝方法について学ぶ
- ⑦企画発表の準備をする
- ⑧企画発表をする
- ⑨評価

【団塊世代向け商品企画プロジェクト(貿易業)】

- ①オリエンテーション
- ②基礎知識の習得
- ③情報収集・調査
- ④分析
- ⑤企画立案
- ⑥ホームページ作成・プレゼンテーション
- ⑦評価・振り返り

・備考

上記の2種類の仕事に基づいたPBL教材の他にも、就職活動用のPBL教材「就職活動を知る ～就職に向けて～」として「【就活へ！はじめの一步】」、「【業界・企業研究入門】」、「【つかめ！面接のコツ】」、「【就職活動ワークブック】」の計4種類が一般公開されている。

・所見

日本のビジネス環境に関する知識がない外国人留学生が「ビジネスレベルの日本語能力」「日本のビジネス文化・知識への理解力」「社会人として行動能力」といった能力を習得できるようにするために作られた教材。課題解決型学習（Project-Based Learning、PBL）型の教材であり、日本語を使って課題・プロジェクトを遂行するというところに重きが置かれている。

本教材は日本における仕事のやり方を学ぶことができるPBL形式の教材であることから、本事業におけるコンピテンシー教材作成に最も近い存在である。特に、活動冊子の開発やプロジェクトの流れを作成する際、既に完成しているPBLのモデルとして参考にすることができると思われる。

[18] 『産学共同研究成果を活用したケース教材』

・ 編者/出版社

観光庁（及び委託を受けた企業と大学）

・ 価格

無料

・ 頁

①教材 26 頁、ティーチングガイド 3 頁、参考資料 39 頁

②教材 13 頁、ティーチングガイド 5 頁、参考資料 54 頁

③教材 48 頁、ティーチングガイド 13 頁、参考資料 105 頁

④教材 26 頁、ティーチングガイド 3 頁、参考資料 39 頁

⑤教材 29 頁、ティーチングガイド 16 頁、参考資料 35 頁

⑥教材 5 頁、ティーチングガイド 2 頁

・ 対象

日本の大学学部生

・ 目次

①旅行業のグローバル事業展開に伴う人材育成戦略

（株式会社ジェイティービー／首都大学東京）

②訪日外国人の行動分析に基づく観光動態把握とスムーズな旅行を行うための課題把握に関する研究

（東日本旅客鉄道株式会社／首都大学東京）

③デスティネーションマーケティング

—ホテルビジネスを通じた地域ブランド開発による絆づくり—

（IHG・ANA・ホテルズグループジャパン合同会社／早稲田大学）

④若年層の旅行需要活性化についての一考察

—若者よ、旅に出よ！！—

（株式会社 ANA 総合研究所／早稲田大学）

⑤旅行事業におけるリスク・マネジメント

（近畿日本ツーリスト株式会社／早稲田大学）

⑥日本版「宿泊施設統一会計報告様式 (USALI)」の利用による利益性向上
(株式会社ロイヤルパークホテル/早稲田大学)

・所見

観光経営マネジメント教育を大学の学部生教育において実践することを目的として作成されたケーススタディ教材。観光庁の事業として産学共同研究の成果を活用して作成されている。テーマによっては複数の教材が作成されている。観光庁 WEB サイトの「産学共同研究成果を活用したケース教材」にて公開されており、無料で使用可能。

仕事を行う際実際に必要となる能力をよく知っている企業と教材開発力のある大学による産学連携のプロジェクトという点は、沖縄の企業と専修学校の連携という本事業の体制と近いところがある。企業と教育機関の連携でどのような真正性の高い教材を作成することが可能かという点で参考にすることができると思われる。

[19]『外国人介護就業希望者教育プログラム「介護の現場（動画ケーススタディ）」』

・編者/出版社

学校法人新井学園 赤門会日本語学校

・価格

なし

・頁

55 頁

・対象

外国人介護就業希望者

・目次

①起床・着替までの支援

②ベッドから車椅子に移乗

③衣類着脱の介護

- ④食事介助
- ⑤認知症患者の訴えへの対応
- ⑥バイタルチェック時の看護師指示への対応
- ⑦排泄介護時の対応（トイレ誘導）
- ⑧排泄介護時の対応（簡易トイレ使用）
- ⑨入浴介護時の対応（一般浴）

・所見

本教材は、実際の介護現場で外国人就業者と施設利用者等の中で交される日本語会話を、食事介助・排泄介護等の典型的な介護シーン毎に再現した動画コンテンツに準拠した問題解決型オンライン学習教材である。動画コンテンツは、シーン=テーマ別の介護分野専門用語も会話の中に意識的に織り交ぜ、実務日本語の語彙力も強化できるような仕様になっている。また、これに準拠するケーススタディは、実際の介護現場の特定の局面で介護就業者が実践すべき日本語会話について、介護の専門的観点も併せ持ちながら検討して解答させる出題になっている。学習の流れは、まず動画を見て内容やシチュエーションを理解する。そしてテーマのような状況のときにはどのように行動し、どのような声掛け及び会話を行うべきかについて検討する。その後、出題される確認問題を解き、回答と解説を読むという手順を踏む。

本事業で作成するコンピテンシー教材の目標である「時間管理や細やかさ・配慮・丁寧さ等、日本的な働き方の行動様式を身に着け、日本の職業人としての基本スキルや日本の職場への順応力の向上を目指す」と同じ方向性で作られている教材である。また、eラーニングの映像教材であるため、学習内容の構成や確認問題といった評価方法の面でも参考とすることができる。

② 研修事例

[20]『外国人留学生を対象とした行政体験研修』

・研修運営

観光庁

・参加費

なし（ただし、交通費・滞在費、食事代、保険料等は各自負担）

・期間

約 6 週間（例として 2010 年度は毎週火・木曜日、週 2 日、10 時～17 時）

・対象

大学又は大学院に所属する外国人留学生のうち、観光関係学部・学科に在籍する者その他観光関係の研究等を行っている者で、在籍する大学等から推薦された者

・学習項目

- ①「ユニバーサルツーリズムの促進」（観光産業課）
- ②「各国政府観光局海外事務所の機能比較研究」（国際交流推進課）
- ③「観光地づくりにおける組織体制整備・人材育成の国際比較」（観光地域振興課）
- ④「ファッション、食、映画・アニメ等を活用した観光振興」（観光資源課）

・所見

観光庁が平成 2008 年度から「開かれた観光庁」を目指す取組の一つとして、外国人留学生を対象として実施している研修。

研修参加者は観光庁の担当部署に一定期間在籍する。そして観光庁の業務に関連する課題について、観光庁職員からのレクチャーや関係者へのヒアリングを交えつつ研修を実施し、最終日には研修参加者自身が研究成果の発表を行う。募集人数は 4 名程度と非常に狭き門であるが、観光庁の一部署に在籍して OJT の形で学びつつ、最終発表日のための研究を行う本研修は、観光業界に携わる人材に必要なコンピテンシー獲得とキャリア形成に貢献するものである。

また、観光庁にとっても、外国人の視点を観光行政に活用でき、観光行政に対する理解の促進が図れるという点で意味のあるプログラムとなっている。

OJT 形式で実際の仕事に触れながら割り振られた学習項目に関する研究を行って発表を行うという手法は、PBL 形式の教材作成に応用できるものである。

[21]『専修リーダーシップ開発プログラム』

・研修運営

専修大学

・参加費

5,000 円

・期間

4月から1月の2学期（例として2018年度は木曜 5・6 時限目）

・対象

専修大学の全学生

・学習項目

①川崎の地酒「出穂」のプロモーション事業

（一般社団法人カワサキノサキ）

②ストーリービジネスの企画・販売

（株式会社 STORY & Co.）

③インバウンド市場におけるイベント等の企画

（株式会社夢乃屋エンターテイメント）

④住工共生のまちづくり活動への参画

（高津ものまちづくり会）

⑤島根県の地域づくり、コミュニティビジネスの企画

（島根県地域振興部しまね暮らし推進課）

⑥沖縄タウン（杉並和泉明店街）の活性化

（一般社団法人 ISP、専修大学附属高校）

（以上は2018年度のプログラム）

・所見

周囲の人々の多様性を理解し、それらの人々と協働して新しい価値を創造していくのに必要不可欠な「リーダーシップ」のコンピテンシーを体得することが主たる目的の講座。「1）リーダーシップとは何を意味するのか、リーダーシップを発揮する際に留意すべき行動規範にはどのようなものがあるのかなど、リーダ

ーシップを取り巻く体系的な知力を備える。」、「2) リーダーシップを実践する際に必要なコア・コンピテンシー (グローバルな他者理解やコミュニケーションなどの能力) に基づいて、周囲を理解しながら影響を及ぼせるような実行力を養う。」、「3) 学習した知識と実践した行動とを照らし合わせ、自己や他者あるいは組織や社会にとって、リーダーシップが持つ意味や意義について振り返る内省力を体得する。」の3点が到達目標として挙げられている。本講座は、上記の学習項目のテーマに基づいてチームで企画をする PBL 形式の活動とリーダーシップについて様々な講師が行う講義科目とに分かれて運営されている。

本事業で開発する教材を使用して行う講座と同様に、コンピテンシー体得を目的とした PBL 形式の授業であるため、授業運営方法、評価方法、講義部分とのバランスといった面で参考にすることができる。

[22] 『関西大学サマースクール Global PBL (Ethnology of Osaka, Japan)』

・研修運営

関西大学

・参加費

175,000 円

・期間

約 2 週間

・対象

国外の学生であれば基本的に対象の制限なし

・学習項目

日本のおもてなし (例として 2017 年度)

・所見

関西大学で毎年夏季休暇中に行われる短期留学コース。留学生が主体的に日本社会で起きている問題や課題に対して解決策を提示する PBL 形式のプログラムとなっている。授業は基本的に英語で行われる。

2017 年は「日本のおもてなし」をテーマとして、留学生がグループで大阪にあ

るホテル、企業、商業施設を訪ね、フィールドワークやインタビューを通して多角的な視点から学び、調査・分析を行った。留学生は基本的に自分たちで調査を行うことができるほど高い日本語力を有しているわけではないが、関西大学の日本人学生が共にフィールドワークに参加することで、必要な調査のサポートを行うことができるような体制が整っている。

プログラムの最後には留学生による発表があり、関西大学の教員、学生、そしてフィールドワークに関わった企業に各グループの研究成果を評価してもらう。成果報告として、留学生は現地調査と研究結果及び課題を提示し、その解決法について提案を行う。本授業を通して、学生は言語の異なる人々と共同学習を行うことで異文化理解能力やチームワークといったコンピテンシーを身に付け、併せて日本についても理解を深めることができる。

学生は併せて追加の費用を払うことで日本語の授業を受けることも可能である。本研修は「日本のおもてなし」というコンピテンシーの理解をテーマとした PBL 形式の研修であり、本事業で開発を目指す PBL 教材と共通点がある。留学生による発表や研究成果の評価方法、日本人学生の関わり方といった面で参考にすることができると思われる。

[23] 『留学生ビジネス日本語能力養成研修』

- ・研修運営

京都府

京都ジョブパーク

- ・参加費

9,800 円

- ・期間

約 6 ヶ月

- ・対象

京都府内の大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）に在籍していること（在留資格「留学」）

※ただし、短期・交換留学生は除く。

日本語能力試験（JLPT）で N2 以上を取得しているか又は同等以上の日本語能力を有すること

・学習項目

①BJT（研修前）を受験

②Web 教材による e ラーニング及び対面講義

③キャリア教育

（日本企業文化・習慣、キャリア形成、ビジネスリテラシー、マナー等）

④企業・外国人材（元留学生）交流会

（企業関係者や京都(日本)企業に勤務する元留学生等との交流・相談）

⑤BJT（研修後）を受験

・所見

京都府が主催している留学生を対象とした研修。企業が求めるビジネス場面での日本語コミュニケーション能力の向上をはじめ、日本企業の文化・習慣を知り、ビジネスリテラシー・ビジネスマナーといったコンピテンシーを習得することを目的としている。

知識学習には e ラーニングを活用しており、研修受講者は 24 時間都合のいい時間に何回でも授業を閲覧することができる。

BJT（ビジネス日本語能力テスト）に力を入れている点は特徴的であり、研修開始前と終了後に 2 回受けることができる。また、研修中には全 4 回の BJT 対策授業も用意されている。

さらに、企業関係者や京都または日本で就職活動し現在働いている元留学生等と直接交流し相談をすることができる機会が提供されているという面でも、日本での就職を目指す留学生に手厚いプログラムとなっている。

キャリア教育の一環としてビジネスマナー・リテラシーといったコンピテンシーを実践的に学ぶことができるという点で、本事業において開発する教材の参考にすることができると思われる。また、日本企業文化・習慣、キャリア形成といった学習項目や企業・外国人材（元留学生）交流会といった企画は、後述する

キャリア教育教材開発の参考とすることができる。さらに、既存の試験または検定を評価の一環として取り入れるという手法も、本事業において検討の余地があるものと思われる。

第3項 キャリア教育

① 教材事例

[24] 『高等学校キャリア教育支援プログラム 職業キャリア教育』

・ 編者/出版社

一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

・ 価格

なし

・ 頁

30 頁

・ 対象

日本人の高校生

・ 目次

01 働くことって何？

02 職業人として知っておきたいこと

03 職業人の心構えとして知っておきたいこと①

04 職業人の心構えとして知っておきたいこと②

05 職業キャリアマインドって何？①

06 職業キャリアマインドって何？②

07 働くことと社会の関係は？

08 働くことと自分の関係は？

09 基礎的な勉強の大切さ

10 一つの仕事に関わる多くの人々

・ 所見

本教材は、日本の高校生を対象として作成されたオンライン教材である。これから進学・就職をすることになる高校生が、職業や働くことの意味を知ることにより良いキャリア形成を図っていけるようになることが本教材の目的となっている。

各課には職業キャリアに関するキーワードが設定されており、自身の理解度を確認テストで試すこともできる。それらを全て終えた後、職業キャリア検定に取り組むことも可能。検定には01課から08課までの「職業キャリアマインドの喚起」を扱った3級、2級と09課、10課を出題範囲とした1級が存在する。日本人の高校生だけでなく留学生に対するキャリア教育の第一歩としても、日本で働くことの意味や日本人の労働観、そして日本でのキャリア形成について考えることができるよう、このような教材を使用することは有意義であると思われる。また、確認テストを用意することにより、学習項目の理解状況を評価できるようにするという手法も取り入れることができる。

[25] 『外国人介護就業希望者教育プログラム「職業キャリアテキスト」』

・ 編者/出版社

学校法人新井学園 赤門会日本語学校

・ 価格

なし

・ 頁

11 頁

・ 対象

外国人の介護分野への就業希望者

・ 目次

1 留学生と日本

1.1 日本への留学・就職

1.2 留学生の学びとキャリア

2 職業理解

- 2.1 介護職とは何か
- 2.2 介護業界の最新動向
- 3 職業意識
 - 3.1 介護人材の職業意識①
 - 3.2 介護人材の職業意識②
- 4 職業人コンピテンシー
 - 4.1 介護人材に必要な能力①
 - 4.2 介護人材に必要な能力②
- 5 職業キャリア形成
 - 5.1 介護人材のキャリア形成①
 - 5.2 介護人材のキャリア形成②

・所見

日本で介護業界への就労を目指す外国人材、または既に介護分野の産業で就労している外国人材に対してキャリア教育を行うための教材。内容は、日本で働くということの意味から介護の仕事におけるキャリア形成までが扱われており、これにより学習者が日本における職業意識や介護という仕事に対する理解を深めることが意図されている。また、就業に関する目的意識の持続を促進し、介護業界への就職からキャリアアップまで長期的なプランをもって日本で働くことを考えるよう促している。

特に外国人留学生または人材に向けた教材として、自身の職業におけるキャリア形成の在り方や働き方について学ぶことができる内容は本事業で開発するキャリア教育教材の参考にすることができる。

[26] 『美容職のキャリア』

・編者/出版社

学校法人大美学園 大阪美容専門学校

・価格

なし

・頁

28 頁

・対象

美容分野の専修学校高等課程在籍者

・目次

①美容職の役割・仕事

②美容職の職場

③美容を巡る社会の動き

④美容業界の動向

⑤社会的責任を担う美容職の心構え①倫理と規範

⑥社会的責任を担う美容職の心構え②顧客指向とコンプライアンス

⑦チームワークにおける美容職の心構え

⑧専門職としての美容職の心構え

⑨対人サービス業としての美容職の心構え

⑩美容職の自己管理に関する心構え

⑪美容職のビジネスモデル

⑫チームワークを強化する人間対応力

⑬美容職のラーニングスキル

⑭接客業としての美容職の視点

⑮美容職に就くまでのキャリアパス

⑯美容職に就いてからのキャリアパス

⑰美容人材のキャリアプラン

⑱美容人材のキャリアビジョン

・所見

中学校を卒業したばかりの美容系専修学校高等課程在籍者に対して、美容の専門知識・技術と並行し、職業観や働くことの意味・意義などについても考えさせるキャリア教育の充実化を図るために作成された教材。美容師の仕事内容から、心構えなどの内面的な内容とキャリアパスやプランについても解説されており、

これから美容師を目指す者にとって、自身の職業についてはっきりと意識することができる内容になっている。

全ての職業に当てはまる一般的な意味でのキャリア教育だけでなく、職業分野を絞った専門的なキャリア教育の教材として非常に内容の濃いものであり、既に修業したい分野が決まっている留学生に向けた専門分野別のキャリア教育教材開発の際、どのような内容を盛り込むべきかという点で大きく参考になる。

[27] 『実践キャリア考 体験からキャリアを考える』

・ 編者/出版社

一般財団法人 全国大学実務教育協会/実教出版

・ 価格

1,404 円

・ 頁

96 頁

・ 対象

大学生及び短期大学生

・ 目次

第 1 章 職業とキャリア

第 2 章 社会の変化と就業に必要な能力

第 3 章 実践から考えるキャリア・デザイン

第 4 章 学習体験・就業体験・問題解決体験のリフレクション

第 5 章 キャリアと能力開発

付章 労働法、税金と社会保険の基礎知識

・ 所見

本書は、高校生時代に体験した様々な活動を振り返ることを通して自分自身のキャリアを考え、開発することを目的として作成された教材である。

第 1 章と第 2 章は大学・短期大学における初年次に活用し、就職活動を見据えた学年になった際には第 3 章、第 4 章、第 5 章を学習することで自己理解およ

び大学・短期大学で体験した様々な活動（授業や課外活動など）の振り返りを行うテキストとして用いることが意図されている。

各章には演習用ワークシートやケースによる学習が取り入れられており、さらに学習テーマについて学びたいと考える読者用に追加教材としてケース教材も準備されている。これらは、実教出版の WEB サイトからダウンロード可能。学年ごとにキャリアについて学習すべき項目を分けて教材を作成するという観点は、本事業における教材開発でも活用することが可能であると思われる。また、教材だけでは提供しきれなかった内容やアップデートして追加してきたい内容を付属教材として特設 WEB サイトからダウンロードして使えるようにするというアイデアも、参考にして取り入れることができるのではないかとと思われる。

② 研修事例

[28] 『留学生対象特別キャリアプログラム』

・研修運営

追手門学院大学

・参加費

なし

・期間

4年間

・対象

追手門学院大学の外国人留学生（短期留学生は除く）

・学習項目

①キャリアと成長を意識したガイダンス

②日本語能力上級(N1 受験対策)

③日本事情

④インターンシップ

⑤留学生キャリア形成ゼミ

- ・ 所見

追手門学院大学が自校の外国人留学生に実施している就職活動支援プログラム。入学時から卒業後のキャリアに関するガイダンスを行い、就職について強く意識した学生生活を送ることができるよう促す。

「日本語能力上級」では、日本での就職や、日系企業での就職を目指す場合要求される N1 取得を目指す。合格するためのコツやポイントを明確に指導し、個別の弱点に関するアドバイスも行う。

「日本事情」では、日本の文化だけでなく、歴史、サービス、就職活動など日本に関する様々な分野の知識を得ることで、異文化としての日本をより深く理解し就職活動が行えるようにする。

また、留学生専用インターンシップも展開しており、1 年や 2 年次からの参加を奨励している。

そして、「留学生キャリア形成ゼミ」では教員と就職・キャリア支援課が日本で就職活動を行う際に必要な日本企業の特徴、就職のノウハウ、日本企業の採用プロセスといった情報を提供することで、留学生の就職を支援している。

4 年間という長い期間をかけているため、キャリア教育の基礎にあたるガイダンス部分から日本語、就職活動に関する知識、インターンシップ、就職活動支援とかなり手厚い内容となっている。教育機関で外国人留学生に対して行うキャリア教育として、どのような内容を提供するべきかの検討に本プログラムは参考になるものである。

[29] 『【留学生対象】 キャリア教育プログラム』

- ・ 研修運営

横浜国立大学、横浜市立大学、文部科学省、神奈川県、横浜市 等

- ・ 参加費

記載なし

- ・ 期間

横浜国立大学：2018 年 5 月 9・11・25 日、6 月 15・29 日

横浜市立大学：2018年4月24日、5月15・22日、6月12・26日

・対象

横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学、関東学院大学の留学生（学部生、大学院生共に可）。

講義を理解できる程度の日本語力が必要。（JLPT N2以上が望ましい。）

・学習項目

①留学生のための就活ガイダンス

～日本企業への就活の流れ～

②自己分析ワークショップ

～卒業後のキャリアを考える～

③自己分析ワークショップ

～インターンシップ準備を知る～

④日本の産業構造を知るワークショップ

～日本で働く未来を知る～

⑤日本の企業文化理解ワークショップ

～日本で働く未来を知る～

（横浜国立大学、横浜市立大学で日程は異なっているが、両プログラムとも基本的に同内容となっている）

・所見

日本に留学し、日本で就職したいと考えている留学生に、就職活動において役立つ知識・情報を提供すると同時に、将来設計・キャリア形成に役立てることができるよう実施された特別集中講義。横浜国立大学が横浜市立大学、文部科学省、神奈川県、横浜市等とパートナーシップを結び、地域の産業界と連携することで生まれたヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラムによって提供されている。

このプログラムは、横浜市立大学の留学生就職支援コーディネーターによって行われており、就職活動やその後のキャリアだけでなく、インターシップに必要な準備に関する内容も取り扱っている。

複数回のワークショップという形で日本での就職活動に必要な知識を留学生に適用するという研修のため、その学習項目は本事業におけるキャリア教育教材の開発に知見を与えるものである。また、複数の教育機関が連携し産業界との共同で提供するキャリア教育という実施形態は、本事業でも参考とするべきものである。

[30]『ふじのくに留学生就職促進プログラム キャリア教育』

- ・研修運営

公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム

- ・参加費

無料

- ・期間

大学学部生：4年間で随時

大学院生（修士課程）：2年間で随時

- ・対象

静岡県内の大学・大学院に在籍していて、卒業・修了後に日本で就職したい留学生

- ・学習項目

【学部生】

- ①会社見学
- ②キャリアデザイン I（ライフキャリアの考え方）
- ③インターンシップキャリアガイダンス
- ④キャリアデザイン II

（日本での社会人生活・日本で働く留学生のキャリア・企業文化）

【修士課程院生】

- ①キャリアデザイン / インターンシップ

【共通】

- ①就職までのプログラム受講

②企業からの講師派遣によるキャリア教育

③国内就職した卒業生の講演

・所見

静岡県の大学、地方公共団体、企業・民間団体等によって結成されたふじのくに地域・大学コンソーシアムによって提供されている。「社会に出ること」、「働くこと」、さらには「異国である日本で働くこと」の意識づけも含めて、独特な日本の社会制度や日本企業の特徴・文化を理解するためのキャリア教育や就職ガイダンスを実施している。

提供するプログラムを全体で見れば、学部生 4 年間、修士課程院生 2 年間を有効に活用した体系的なキャリア教育・就職支援を行っている。また、個別の学生に対しても各人が日本での就職に向けて意識し、キャリアプラン作成に至れるよう支援を行う。

学生の属性（学部生・院生）によって学習内容に違いがあったり、必要だと思ふ学習項目を随時始められたりするシステムは柔軟性があり、この方法を本事業でも活用できればより留学生のニーズに合った学習項目を提供できるようになると思われる。また、地方における教育機関と企業との連携で行われるキャリア教育として、そのモデルは本事業でも参考となるものである。

[31]『「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラム キャリア教育』

・研修運営

留学生就職促進コンソーシアム（金沢大学、信州大学）

・参加費

記載なし

・期間

大学歴に沿って通常の科目と同様に開講

・対象

金沢大学、信州大学の留学生

・学習項目

- ①企業文化組織論 A
- ②企業文化組織論 B
- ③いしかわ金沢学
- ④技術経営論入門 A
- ⑤技術経営論入門 B
- ⑥技術マネジメント基礎論 A
- ⑦技術マネジメント基礎論 B
- ⑧環境マネジメント論 A
- ⑨環境マネジメント論 B
- ⑩ベンチャービジネス論 A
- ⑪ベンチャービジネス論 B

・所見

金沢大学と信州大学によって結成された留学生就職促進コンソーシアムの「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラムにおけるキャリア教育科目群。

日本での就職を希望する留学生にとって、就職活動をする際に大きな問題となる日本特有の企業文化・企業組織・企業戦略について「企業文化組織論 A、B」で学ぶ。また、「いしかわ金沢学」では、石川、金沢、そして日本の文化に触れ、理解することで日本での生活・就職に活かすことを目指す。さらに、グローバル化する日本企業での技術経営を学ぶために、4つの科目からなる MOT 科目群（「技術経営論入門 A、B」、「技術マネジメント基礎論 A、B」、「環境マネジメント論 A、B」、「ベンチャービジネス論 A、B」）を提供している。これらの科目群を履修することによって、留学生が就職活動を円滑に行い、志望企業からの内定を得るだけでなく、就職した企業・団体で自分の能力を十分に発揮するキャリアプランを描けるようにすることも本プログラムの目的の一つである。

このプログラムも、地方の教育機関と企業の共同でキャリア教育の機会を提供しているというモデルで行われており、本事業も参考としたい形態をとってい

る。また、キャリア教育の学習項目としてその地方のことを盛り込むという構成は、本事業教材開発で「社会・文化教育」を行うという思想とも一致している。

第5節 まとめ

本章では、今年度実施した3つの調査結果を紹介してきた。第1節では3つの調査の概要を述べた。

第2節では、「沖縄県内企業対象アンケート実態調査」の結果を紹介した。回答企業の業種としては、「自動車整備業」が25件で一番多く、「情報通信業」「医療業」が続いた。従業員の数については、規模に偏りはなかった。従業員の過不足に関しては、7割を超える企業が「不足」を感じている結果となり、その内の約6割が業務への影響について「やや支障が出ている」と回答している。外国人の活用では、採用している企業にて約3割が「会社全体の異文化・多様性への理解の向上」を実感しているという結果になった。今後の採用意向では、約3割の企業が「正社員」としての採用に意欲があることがわかった。外国人従業員の役割については、「外国人顧客等の対応業務」と「技術職の業務」が多い結果となった。一方で、外国人採用への課題に関する項目にて、企業側の体制整備が進んでおらず、研修も消極的な意見が見られた。本事業で開発する教育プログラムについては、3つの項目すべてにおいて85%以上の企業から「必要」を得られる結果であった。

第3節では、「沖縄県内留学生対象アンケート実態調査」について、2つの結果を紹介した。①がIT系専門学校にて実施した実態調査であり、②は大学生その他専門学校生の協力である。回答者の「日本にいる年数」は①が「2年から3年」「3年から4年」が多く、②では「5年以上」という人も見られた。多くの回答者が2年以上日本にいる結果となった。出身は両方ともASEAN諸国が多く、年齢はそこまで偏りは見られない結果となった。日本への留学理由は「日本の文化や歴史に興味があるから」と「日本で就職したいから」が多い。沖縄に選んだ理由において、「友人・知人や家族が勧めたから」が2番目に多く、口コミで沖縄の評価が高いことがうかがえる。沖縄への留学について7割以上が好印象であり、理由としては「優しい」や「親切」など人間的魅力が一番多く、今後の生活での不安については「就職」が一番であった。学校卒業後の希望について

は約 7 割が「沖縄で就職したい」「日本の沖縄以外で就職したい」と回答し、日本での就職に意欲的であることがわかる。日本での就職に意欲的ではあるが、将来的に母国に帰国を希望している人も多いことがわかった。本事業の教育プログラムについては、約 9 割の回答者が必要性を感じている結果となった。本事業におけるプログラムは、企業と留学生それぞれからニーズがある結果となった。

第 4 節では、教育プログラムを構成する「日本文化・社会教育」「キャリア教育」「日本型コンピテンシー教育」の 3 科目の教育内容と合致または近似する既存教材の事例調査を行った。第 1 項では「日本文化・社会教育」に関する教材及び研修の事例である。日本の表層的な現代文化や伝統文化だけでなく社会、政治、経済、人々の暮らしといった様々な日本事情や、本事業の趣旨を反映して沖縄に特化した教材及び研修をまとめた。第 2 項では「日本型コンピテンシー教育」を取り扱う教材及び研修に関して報告した。ここでは、日本での各専門分野の業務または分野共通的な業務における細やかさ・配慮・丁寧さなど日本的な働き方の行動様式を学ぶための教材及び研修についてまとめた。第 3 項では、「キャリア教育」に関する教材及び研修の事例の調査結果である。日本での外国人の就職活動手順・方法、キャリア形成の在り方、外国人のキャリアモデル、外国人の日本就業事例などを整理した教材やインターンシップを含んだ研修等の事例について述べた。

第3章 教育プログラム開発

第1節 概要

本章では、当社団が本事業において構築していく教育プログラムについて今年度での成果を報告していく。今年度では、「ソーシャルスキル評価指標開発」「カリキュラム開発」「教育教材プロトタイプ開発」を実施した。

第2節では、「ソーシャルスキル評価指標開発」について述べていく。指標については、本事業で構築する教育プログラムの受講者が評価対象となり、当社団が開発する3項目の教育プログラムを修了した際の証明となることを想定するため、3項目に対応した基準項目を設定している。

第3節は、「カリキュラム開発」である。教育プログラムのカリキュラムについて、3項目それぞれの説明や単元の列挙などを追加したうえで表にしてまとめている。

第4節は、「教材プロトタイプ開発」について報告する。本年度では、プロトタイプの開発として、第1項の「日本文化・社会教育教材」では沖縄県の生活に関連したテキスト教材を開発について述べている。第2項では、「日本型コンピテンシー教育」のPBL（Project Based Learning）教材として留学生の就職活動に着目したPBLの開発について報告している。第3項では「キャリア教育」では、介護業界およびIT業界に関するテキスト教材についてそれぞれ説明している。

第2節 ソーシャルスキル評価指標開発

本節では、本事業による教育プログラムによって、教育テーマである外国人留学生在が日本で就職・定着する上で必要な「ソーシャルスキル」を定義するために開発した「ソーシャルスキル評価指標」について報告する。

本事業における「ソーシャルスキル評価指標」は、次の3つの領域から構成される。

- ① 日本的価値観
- ② 日本的行動様式
- ③ 日本型キャリア形成

この3つの領域については、今年度事業で開発したカリキュラムの3系統の教育と対応する。①は「日本文化・社会教育」、②は「日本型コンピテンシー教育」、③は「キャリア教育」である。

今年度においては、評価指標のモデル開発を行った。3領域それぞれにおける評価指標の項目および知識指標について、次ページ以降で紹介していく。

指標基準については、基礎的な教育内容を想定し、用語や事柄についての理解度を3段階ではかる知識指標で表している。

- ・「1」：聞いたり、見たことがあり、知っている。
- ・「2」：理解している
- ・「3」：(他者に)説明できる

このように、学習した内容の理解度を可視化することによって、外国人留学生在が日本での就職や生活における自身の課題を明確にする基準となる。

① 日本的価値観

日本的価値観は、日本文化・社会教育の評価指標となる。下図は、評価指標のモデルである。大項目には評価指標である日本的価値観、中項目には教育内容として今年度開発した日本文化・社会教育教材である沖縄県の生活に関連したテキスト教材を事例として表記している。そして、小項目に理解度をはかるためのキーワードを列挙している。そのキーワードに対する理解度を「1」～「3」で該当する数字にチェックをする形式となる。

大項目	中項目	小項目	知識指標		
日本的価値観	沖縄の生活	① 第一牧志公設市場	1	2	3
		② イラブチャー	1	2	3
		③ ラフテー	1	2	3
		④ ゴーヤー	1	2	3
		⑤ シークワサー	1	2	3
		⑥ 沖縄県とコンブの関係	1	2	3
		⑦ チャンプルー	1	2	3
		⑧ 島どうふ	1	2	3
		⑨ サーターアンダギー	1	2	3
		⑩ チンスコー	1	2	3
		⑪ 沖縄の伝統的な家	1	2	3
		⑫ シーサー	1	2	3
		⑬ 石敢當	1	2	3
		⑭ シーミー	1	2	3
		⑮ ユッカヌヒー	1	2	3
		⑯ ウミンチュの祭り	1	2	3
		⑰ エイサー	1	2	3

②日本的行動様式

日本的行動様式は、日本型コンピテンシー教育の評価指標となっている。評価指標のモデルとして、カリキュラムにて提示する「おもてなし」や「チームワーク」におけるキーワードを事例として列挙している。今後、評価指標の内容を検討していく。知識指標については前述のとおりである。

大項目	中項目	小項目	知識指標		
日本的行動様式	おもてなし	①細やかさ	1	2	3
		②配慮	1	2	3
		③丁寧さ	1	2	3
		④心の余裕	1	2	3
		⑤目配り・気配り・心配り	1	2	3
		⋮	⋮		
	チームワーク	①連携	1	2	3
		②相互作用	1	2	3
		③共同体	1	2	3
		④団結力	1	2	3
		⑤帰属意識	1	2	3
		⑥情報共有	1	2	3
		⋮	⋮		
	⋮	⋮	⋮		

③日本型キャリア形成

日本型キャリア形成については、キャリア教育と対応している。評価指標のモデルとして、開発した『介護職のキャリア』と『IT人材のキャリア』を挙げている。

大項目	中項目	小項目	知識指標		
日本型 キャリア 形成	介護 職 の キ ャ リ ア	①介護職の役割	1	2	3
		②介護職の職場	1	2	3
		③要介護認定	1	2	3
		④介護職の倫理	1	2	3
		⑤チームケア	1	2	3
		⑥介護職としての心構え	1	2	3
		⑦報連相	1	2	3
		⑧QOLの向上	1	2	3
		⑨ケアマネジャー	1	2	3
		⑩看護師と介護士の違い	1	2	3
	⋮	⋮			
	キ ャ リ ア の	①IT職の役割	1	2	3
		②AI、IoT、ビッグデータ	1	2	3
		③IT職の倫理と規範	1	2	3
		④介護職の倫理	1	2	3
		⑤IT職のキャリアパス	1	2	3
	⋮	⋮			
⋮	⋮				

第3節 カリキュラム開発

本節では、教育プログラムにおけるカリキュラムの開発について述べていく。

まず、教育プログラムは、沖縄県の専修学校に在籍中の外国人留学生をの主な対象として想定している。但し、受講時点で N2 以上の日本語力を有すること、日本での就労を希望または検討中であることを要件とする。

次に、カリキュラムの方針については、外国人留学生の沖縄県地域社会および日本社会への適応力を向上させて定着・就労を促進するため、留学生が日本的な価値観、日本でのキャリア形成方法、日本的な行動様式など、日本のどの専門分野で就労する際にも必要とされる分野横断的なソーシャルスキルを醸成していくことにより、沖縄県地域産業の人手不足への対応や、沖縄県および日本の振興に貢献する人材を養成することである。そのため、外国人留学生が日本・沖縄に定着・就労し、日本の社会人として働くために、日本や沖縄県の文化・社会への理解を深め、日本で働く際の行動様式を身に付けることに加えて、日本での就職活動・キャリア形成に関する知識を学習し、外国人留学生自身が日本・沖縄での就職を検討することを支援する内容となっている。

本事業における教育プログラムのカリキュラムは、「日本文化・社会教育」「キャリア教育」「日本型コンピテンシー教育」の3項目から構成されている。

○「日本文化・社会教育」:

沖縄県の地域産業構造と現況や地域文化、日本の社会・経済の現況などの日本・沖縄の文化・社会に関して、日本的な価値観を形成するための知識を教育するとともに、日本・沖縄への帰属意識を向上させることを目標としてしている。

○「日本型コンピテンシー教育」:

“おもてなし”に代表される、細やかさ・配慮・丁寧さなど日本的行動様式を、PBL (Project Based Learning) によるロールプレイング形式の学習を通して習得していく。

○「キャリア教育」:

外国人の日本におけるキャリア形成の在り方や、業界研究・就職活動の方法を教育すると共に、短期のインターンシップを実施することで日本での働き方を検討するための知識・体験を与える。

学習時間については、各 60 時間の 計 180 時間を想定している。ただし、座学部分（90 時間程度を想定）については e ラーニングによる自己学習を想定している。

本事業において開発する教育プログラムのカリキュラムとしては、上記の日本的価値観、日本的行動様式、日本型キャリア形成等の分野横断的な知識・スキルを、外国人が日本で就職する上で必要な「ソーシャルスキル」と定義し、このソーシャルスキルを身に付けるために、次ページにてまとめた表のように、3 系統の教育を展開していく。

・カリキュラム表

群	説明	科目	時間	ソーシャルスキル
日本文化・社会教育	沖縄県の地域産業構造・地域文化、日本社会・経済などの日本的な価値観を形成する背景知識を教育するとともに、日本・沖縄への帰属意識の向上を目指す。教材は新規開発および既存教材等のアレンジを想定。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本・地域の歴史・文化・宗教 ○日本の法律 ○日本・地域産業 ○日本・地域経済 ○企業倫理・コンプライアンス ○人間関係 等 	60h	日本的 価値観
日本型 コンピテンシー教育	“おもてなし”に代表される、細やかさ・配慮・丁寧さなど日本的な働き方の行動様式を、PBL (Project Based Learning) によるロールプレイング形式の学習を通して習得を目指す。教材は新規開発を想定。	<ul style="list-style-type: none"> ○ホスピタリティ ○コミュニケーション ○タスク管理 ○時間管理 ○課題設定・問題解決 ○計画立案・遂行 ○チームワーク 等 	60h	日本的 行動様式
キャリア教育	日本でのキャリア形成の在り方や、業界研究・就職活動の方法を教育するとともに、短期インターンシップを実施し、日本での働き方を検討するための知識・体験の獲得を目指す。教材は新規開発及び既存教材等のアレンジを想定。	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフプランニング ○各専門分野のキャリアパス・キャリアプラン ○企業情報収集・分析 ○職業人意識 ○ラーニングスキル 等 	60h	日本型 キャリア形成

第4節 教材プロトタイプ開発

本節では、今年度開発を行った教育プログラムにおける3項目の教材プロトタイプについて報告する。

第1項 日本文化・社会教育教材

本項では、日本文化・社会教育教材として開発した沖縄県の生活に関連するテキスト教材について紹介していく。本テキスト教材は「沖縄の食文化①」「沖縄の食文化②」「沖縄の伝統文化①」「沖縄の伝統文化②」の全4部構成となっている。

「沖縄の食文化①」では、沖縄県那覇市の市場の光景や魚屋、肉屋などの店舗を紹介している。「沖縄の食文化②」では、ゴーヤーチャンプルーなどの沖縄の伝統的な料理や、シークワサーなどの果物を画像とともに説明している。「沖縄の伝統文化①」では伝統的な家やシーサーの意義などを示している。最後の「沖縄の伝統文化②」については伝統舞踊であるエイサーやウミンチュの祭りを紹介している。

本テキスト教材は、留学生が沖縄という地域の様々な伝統文化や歴史に対する理解促進をはかることによって、沖縄への定着に寄与することが目的である。

テキスト教材の事例として、次ページにて一部添付している。今年度開発したテキスト教材については付録にて紹介している。

・教材事例

～沖縄の伝統文化～
シーサー

- ・「シーサー」は、まじまじ魔物が入ってこないように家を守っている。
- ・門柱にはまじまじ左右にシーサーがあり、それぞれ意味がある。
 - 「口を開けているシーサー」⇒ まねく福をまねく
 - 「口を閉じているシーサー」⇒ まねくわざわいを中に入れない
- ・沖縄の学校では、シーサーづくりがまねく行われている。



まず、シーサーですね。一見こわそうな顔をしています。どこかかわいらしい表情をしています。シーサーは魔物が入ってこないように、家を守ってくれるといわれています。

もともとは屋根の瓦をふく職人さんが、あまった瓦を漆喰で固めてつくったのが始まりだとされています。

シーサーのような獅子を守り神にする信仰というのは、14～15世紀ごろに沖縄にわたったといわれます。

シーサーには2種類あるのをご存知でしょうか。口を開けている方はメスのシーサーで、「福をまねく」といわれています。写真の右側ですね。

反対に、写真の左側のシーサーは口がふさがっていますね。口を閉じている方はオスのシーサーで、災いを中に入れないように見張っているんです。

シーサーは瓦としっくい以外にも、焼き物や石づくりのものなどがあります。沖縄では学校をはじめ、いろいろなところで、シーサーづくりがおこなわれています。お土産でも買うことができとても人気がありますね。

第2項 日本型コンピテンシー教育教材

次に、今年度開発した「日本型コンピテンシー教育」のPBL（Project Based Learning）教材の開発について報告する。

PBL は、受講者が答えが1つとは限らない問題に対して主体的かつ能動的に参加することによって、教養、知識、経験などを含めた汎用的能力の育成を図る教育手法である。

外国人留学生は、本事業内で定める「ソーシャルスキル」の1つであり、“おもてなし”に代表される、細やかさ・配慮・丁寧さなどの「日本型行動様式」を身に付けていくために、日本型コンピテンシー教育にて、ロールプレイング形式の学習を含めたPBL教材を通して習得していく。

今年度では、PBL教材のプロトタイプ構築として、「留学生の就職活動」について開発を実施した。本PBL教材における学習要項は以下のとおりである。

●学習目標：

- ① 日本の就職活動の手順の理解
- ② 就職活動のために必要な情報の理解
(自己分析/業界研究/企業分析/エントリーシート/面接力)
- ③ 就職活動に必要な知識の取得

●学習テーマ：

「留学生のための日本の就職活動の手順の習得」

●学習設定：

受講者である留学生が日本の就職活動を行う。

●実施時間

全15時間（1.5時間×2コマ×5回、1日3.0時間×5日）

学習の手順として、「自己分析」「業界研究」「企業分析」「エントリーシート」「面接」という5段階が設定されている。

まず、「自己分析」では、自己分析シートを活用して自己分析の意義・方法について理解し、自己分析を実際に行う。留学生が、母国と日本それぞれでの経験を整理できるよう構成している。また、受講者が日本に関心を持ったきっかけや今後どのように日本との関係を希望するのかを確認する項目を設置することによって、留学生ならではの強みを引き出せるようにしている。

次に、「業界研究」では、業界研究の概要、目的、ポイントと方法を把握し、シート作成を行う。基本的には日本の学生を対象として実施される内容と同等であるが、就労ビザについての注意点が挙げられている。受講者である外国人留学生が業界研究を行う中で発見した業界で就労ビザが認定されるかどうかを確認する項目を組みこまれている。

3つ目の「企業分析」では、その目的を踏まえた上でシートを作成していく。外国人留学生は、企業が留学生を採用する目的を理解し、留学生自身がどのような分野であれば企業に貢献できるのかを分析する。

4つ目である「エントリーシート」では、就職活動の流れを理解した上で、エントリーシートの役割・書き方を学習する。例えば、エントリーシートと履歴書の違いや、エントリーシートの記入例について考察を行う。そして、留学生自身で記入演習をおこなう。

最後の「面接」では、受付から退出までの面接の流れを把握する。さらに、面接で聞かれる質問の事例を列挙され、その質問の意図が説明され、質問への準備のポイントを確認する。最終的には、チェックシートを活用しながらグループワークで模擬面接を実施する。

以上が今年度開発したPBL教材の概要である。次ページにて一部を添付している。PBL教材全体は付録にて紹介している。

・ PBL 事例

外国人留学生として必要な自己分析

企業は留学生をグローバル人材として期待しています。
留学生のための特別な自己分析をしましょう。

- ▶ 日本に留学したのはなぜか？他の国でない理由
- ▶ 日本に興味を持ったきっかけ
- ▶ 日本に留学してよかったこと
- ▶ 日本で就職したい理由
- ▶ グローバル人材として自分は何ができるか
- ▶ 5年後、10年後、20年後どこの国で何をしているか
- ▶ 母国と日本の文化、習慣、性格などの違い

▶

4-4 エントリーシート記入演習②

- ▶ あなたが過去に挑戦したことの中で直面した最大の困難は何ですか？その困難をどのように乗り越えたのか、また、その経験があなたの人生や価値観にどのような影響を与えたのかについて、記述してください。（300字以上400字以内）

▶

第3項 キャリア教育教材

今年度では、キャリア教育のテキスト教材として、介護業界とIT業界の2つの開発を実施した。介護業界テキスト教材は、全25ページの14項目で作成した。IT業界については、原稿作成の段階であり、来年度以降に完成を想定している。

①「介護業界キャリア教育」テキスト教材

介護業界キャリア教育のテキスト教材は、「職業理解」「職業意識」「職業人コンピテンシー」「職業キャリア形成」という4つの大項目から構成され、その中に8つの中項目、14の小項目がある。それぞれの項目については以下の表にまとめている。また、次ページに一部紹介している。全ページについては付録にまとめている。

本テキスト教材を活用し、介護業界への理解促進、介護人材としての職業意識醸成、介護人材としての必要な能力へのアプローチ、介護人材におけるキャリア形成を学習することにより、受講者が介護士としてのキャリアマインドを構築していく際の支援プログラムとして寄与することを目的としている。

大項目	中項目	小項目
介護分野 職業理解	介護職とは何か① 介護職の役割・意義と職種を知る	01. 介護職の役割・仕事
		02. 介護職の職場
		03. 介護をめぐる社会の動き
	介護職とは何か② 社会の動きと動向を知る	04. 介護業界の動向
介護分野 職業意識	介護人材の職業意識① 組織・社会の一員としての介護人材の心構えを知る	05. 社会的責任を担う介護職の心構え① 介護職の倫理
		06. 社会的責任を担う介護職の心構え② チームケアの心構え
	介護人材の職業意識② 個人としての介護人材の心構えを学ぶ	07. 専門職としての介護職の心構え
介護分野 職業人コンピテンシー	介護人材に必要な能力① チームワークで働く介護人材が習得すべき能力を考える	08. 介護職のコミュニケーション能力
		09. チームワークを強化する人間対応力
	介護人材に必要な能力② 専門職業人として日々の研鑽が必要な介護人材が習得すべき能力を考える	10. 専門職としての介護職の視点
介護分野 職業キャリア形成	介護人材のキャリアパス形成① 様々な介護職のキャリアパスを考える	11. 介護職のキャリアパス
		12. 介護職のやりがいや達成感・使命感
	介護人材のキャリアパス形成② 介護人材としての自分のキャリアを考える	13. 介護人材のキャリアプラン
		14. 介護人材のキャリアビジョン



介護職のキャリア

04

01 介護職とは何か①

介護職の役割・意義と職種を知る

介護職の役割・仕事

■ 役割

介護職の役割は「全体的な役割」として「生活支援」「介護支援」「ケア支援」の3つに分けられ、それぞれが重要な役割を果たしている。また、介護職は「ケア」の専門家として、利用者や家族の生活を支える役割も果たしている。

介護職の仕事は「ケア」の専門家として、利用者や家族の生活を支える役割も果たしている。また、介護職は「ケア」の専門家として、利用者や家族の生活を支える役割も果たしている。

05

02 介護職とは何か②

介護職の役割・意義と職種を知る

介護職の職場

■ 施設サービスと在宅サービス

介護職の職場は大きく分けて「施設サービス」と「在宅サービス」の2つに分けられる。施設サービスは、介護施設や介護ホームなどで働くこと、在宅サービスは、利用者の自宅に訪問して働くこと。

施設サービスには、介護施設、介護ホーム、介護サービスセンターなどがある。在宅サービスには、訪問介護、訪問看護、訪問介護サービスセンターなどがある。

06

②「IT 業界キャリア教育」テキスト教材

次に、「IT 業界キャリア教育」のテキスト教材について述べていく。IT 業界の項目数については、「介護業界」に比較すると4項目多い18項目となっている。今年度に列挙した項目について内容も踏まえ上で、来年度以降に整理・検討を行うことが必要である。

そのため、今年度における「IT 業界」におけるテキスト教材の開発報告としては、骨格となる項目について紹介していく。項目は以下の通りである。また、今年度の開発内容の一部は次ページにて、全項目とその解説については付録にて紹介する。

大項目	中項目	小項目
IT分野 職業理解	IT人材とは何か IT人材の役割・意義と職種を知る	01. IT人材の役割・仕事
		02. IT人材の現場
	IT業界の最新動向 社会の動きとIT業界の動向を知る	03. ITをめぐる社会の動き
		04. IT業界の動向
IT分野 職業意識	IT人材の職業意識① 組織・社会の一員としてのIT人材の心構えを知る	05. 社会的責任を担うIT人材の心構え① 倫理と規範
		06. 社会的責任を担うIT人材の心構え② 顧客志向とコンプライアンス
		07. チームワークにおけるIT人材の心構え
	IT人材の職業意識② 個人としてのIT人材の心構えを学ぶ	08. 専門職としてのIT人材の心構え
		09. サービス業としてのIT人材の心構え
		10. IT人材の自己管理に関する心構え
IT分野 職業人コンピテンシー	IT人材に必要な能力① チームワークで働くIT人材が習得すべき能力を考える	11. IT人材のビジネススキル
		12. チームワークを強化する人間対応力
	IT人材に必要な能力② 専門職業人として日々の研鑽が必要なIT人材が習得すべき能力を考える	13. IT人材のラーニングスキル
		14. サービス業としてのIT人材の視点
IT分野 職業キャリア形成	IT人材のキャリアパス形成① 様々なIT人材のキャリアパスを考える	15. IT人材となるまでのキャリアパス
		16. IT人材のキャリアパス
	IT人材のキャリアパス形成② IT人材としての自分のキャリアを考える	17. IT人材のキャリアプラン
		18. IT人材のキャリアビジョン

第5節 まとめ

本章では、今年度における教育プログラムの成果を報告した。今年度では、「ソーシャルスキル評価指標開発」「カリキュラム開発」「教育教材プロトタイプ開発」の3つの開発を実施した。

第2節の「ソーシャルスキル評価指標開発」については、評価指標における理解度の段階について説明した上で、日本的価値観、日本的行動様式、日本型キャリア形成の3領域におけるモデル指標をそれぞれ提示した。

第3節の「カリキュラム開発」では、教育プログラムのカリキュラムについて、「日本文化・社会教育」「キャリア教育」「日本型コンピテンシー教育」の3項目から構成されていることを紹介し、それぞれの項目における科目、時間数、ソーシャルスキルとの対応を表にて提示した。

第4節「教材プロトタイプ開発」においては、カリキュラムの3つ項目にそれぞれ対応するように開発したプロトタイプを合計4つ報告している。「日本文化・社会教育」では、沖縄県の生活に関連するテキスト教材を開発した。「日本型コンピテンシー教育」では、PBL教材のプロトタイプとして開発した『留学生就職活動 PBL』を報告した。それぞれの説明あとに事例として対応する教材の一部を紹介している。「キャリア教育」では、介護業界への理解促進、介護人材としての職業意識醸成、介護人材としての必要な能力へのアプローチ、介護人材におけるキャリア形成を目的とした『介護職のキャリア』と、IT業界の把握やIT業界職業意識醸成、IT業界に必要な能力の理解、IT業界におけるキャリアビジョンの形成から構成される『IT職のキャリア』の2つの作成を実施した。

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、《一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会》が実施した平成 30 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をまとめたものです。

平成 30 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証
沖縄県における外国人留学生の地域定着支援プログラムの開発・実証事業

成果報告書

発行者：一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

発行：平成 31 年 3 月